

平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	奈良先端科学技術大学院大学	整理番号	b032
1. 申請分野(系)	理工農系		
2. 教育プログラムの名称	未来を切り拓く情報科学人材育成コア		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 情報学、電気電子工学、ゲノム科学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (計算機システム・ネットワーク、メディア情報学・データベース、知覚情報処理・知能ロボティクス、通信・ネットワーク工学、バイオインフォマティクス)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 情報科学研究科・情報システム学専攻[博士前期課程] 情報科学研究科・情報システム学専攻[博士後期課程]	研究科長(取組代表者)の氏名 千原 國宏	
	(その他関連する研究科・専攻名) 情報科学研究科・情報処理学専攻[博士前期課程][博士後期課程] 情報科学研究科・情報生命科学専攻[博士前期課程][博士後期課程]		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>本学は、先端科学技術の発展に資する人材を養成するために学部を置かない大学院大学として設置された。21世紀における人類の豊かな生活と住みよい社会を実現し持続していくためには、次代を担う人材を養成して人類の発展に役立つ多様な研究成果を社会に還元することが不可欠である。そのためには、先端科学技術の知識に加えて、産業界や地域社会の期待に応え将来の豊かな社会を切り開く独創力と国際感覚、競争力を持つ人材育成のための教育プログラムの実現が望まれる。</p> <p>情報科学研究科では、高度な研究者・技術者を育成するために、専攻を越えたコースウェアからなるコアカリキュラム、社会をリードする真に独創的な人材を育む4つのアドバンスプロジェクト、ならびにそれらを支える教育基盤の整備に取り組んでいる。柔軟かつ多様性に富んだ教育体制のもと、これらの教育事業により、「体系的な教育と研究活動を通じて高い志をもって科学技術の推進に挑戦する人材、および国際社会で指導的な役割を果たす人材を育成する」という本学の教育の使命が真に実現されると確信する。</p>			

機 関 名	奈良先端科学技術大学院大学	整理番号	b032
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>「産業競争力向上の観点からみた大学活動評価手法」に基づくIT分野の教育評価において3専攻合わせて222項目中221項目でA+ランク(全国288専攻中上位5%以内)の評価を得た(13-(1)参照)。11の教育連携講座への学生の長期派遣(9年間で70名以上)、毎年20テーマ以上の短期集中型学外プロジェクト実習の実施など、学外研究機関との連携による派遣型高度人材育成を行ってきた。特待生制度の導入(授業料相当額の研究奨励金、研究プロジェクトと国際化活動の支援)、学生に対する競争的研究奨励制度(IS Fund他)、最優秀学生賞の授与などを実施してきた。また、優秀学生の短期修了制度も推進してきた(過去3年間で前期課程21名、後期課程31名が短期修了)。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>コアカリキュラム (高度情報通信 (ICT) 技術者・研究者の礎を築く前期課程コースウェア教育の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専攻の枠を越えて設計された本格的コースウェア:情報科学の諸領域を広く網羅する140単位以上の専門科目/情報倫理・知的財産権・経営論・標準化・ベンチャー論等の学際領域科目/科学技術英語/情報系以外からの入学生のための基礎科目からなる体系的カリキュラムをさらに整備する。 ・インターネットによる遠隔連携講義をさらに充実する。情報科学センター・電子図書館の協力のもと、新たに授業風景・教材同期型オンデマンド授業システムを構築する。 <p>アドバンスプロジェクト (学生の自主性を尊重し社会をリードする人材を育成する取組の更なる展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特待生制度ESP(経済的支援のみではない本格的なリーダー育成制度。特待生自らがテーマ提案する研究プロジェクトと国際化活動。平成17年度に3名を採用。本事業により質・量とも充実させる。) ・情報教育連携プロジェクト(学外連携研究機関への学生の長期派遣による高度インターンシップ) ・学術交流協定に基づく学生交換プログラムを活用した国際感覚と競争力のある人材育成 ・地域社会への貢献を通じた実地教育(サイエンスパートナーシップ、スプリングセミナー、出前授業) <p>しなやかな教育基盤 (ICT技術を駆使した効果的な支援体制、すばやい評価と改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスデータベースをはじめとするカリキュラム編成・授業支援システムを構築する。 ・FD教員海外研修、学外FD委員による授業視察と改善提言、アドバイザー委員会による外部評価をさらに充実させ、国内外有識者との情報交換のためFDシンポジウムを新たに開催する。 			

6. 履修プロセスの概念図

カリキュラムを支えるしなやかな教育基盤・教育体制

- ・テキスト/授業風景同期型コンテンツによるオンデマンド授業システム (構築予定)
- ・インターネット遠隔連携授業
- ・多機能シラバスデータベース等を含むカリキュラム編成・授業支援システム (構築予定)
- ・授業評価アンケート/教員による改善報告/アドバイザー委員会による外部評価 (毎年秋開催) / 評価部会による自己評価 (3年毎)
- ・FDのための教員海外教育研修 (夏期) /FD報告会 (3月) /FDシンポジウム (隔年で開催予定)

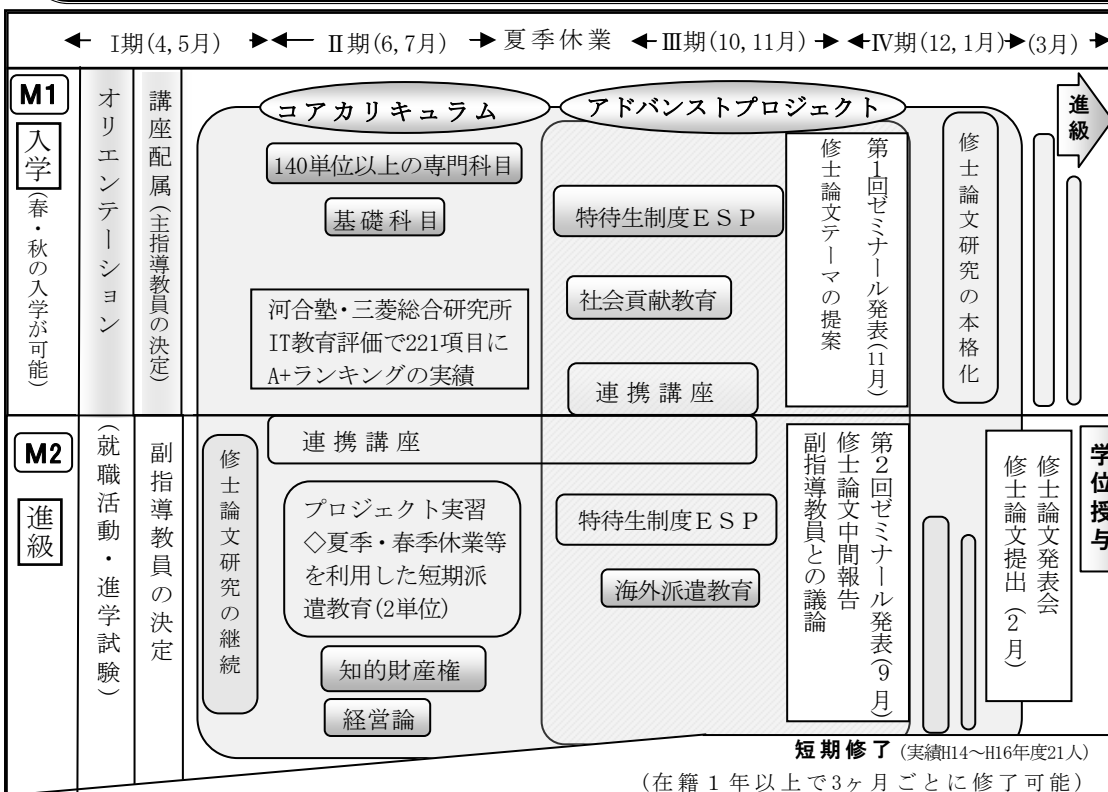
アドバンスプロジェクト

特待生制度ESP: 経済的支援に加え、特別演習 (6単位) として、
 ◇研究プロジェクト (自ら立案したテーマを研究。成果をアドバイザー委員会、オープンキャンパス等で発表)
 ◇国際化活動 (夏季休暇等に国際会議・海外セミナーに参加)

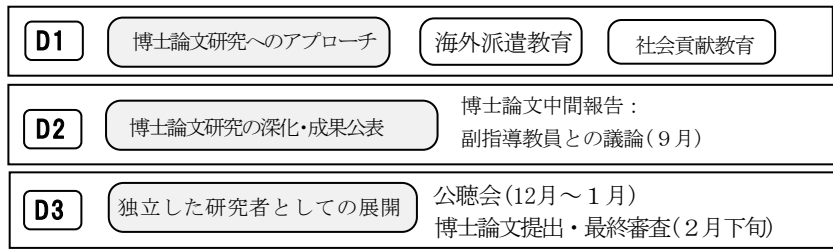
情報教育連携プロジェクト(連携講座):
 11の連携講座に希望学生を長期派遣。
 M1 I, II期 連携講座学生は基幹講座も選択、コアカリキュラムで学ぶ
 M1 III期~M2 派遣先で修士論文等の研究指導を受ける

海外派遣教育: ◇事前教育 (英語ライティング法、プレゼンテーション法)
 ◇英語e-ラーニング教材の整備、TOEICの学内実施 (7月、12月)
 ◇学術交流協定に基づく連携校への派遣 (現在、メリーランド大他4校へ)

地域社会貢献を通じた教育:
 TAとして以下の活動に参加
 ◇サイエンスパートナーシッププログラム (小中学校教員のための情報リフレッシュ教育)
 ◇オープンキャンパス、スプリングセミナー (学部学生向け)
 ◇公開講座 (市民向け)



次世代を担う独創力・国際性を備えた社会をリードする人材へ



RA採用・提案公募型研究へ展開
 21世紀COEプログラム
 ・情報「ユビキタス統合メディアコンピューティング」
 ・バイオ「細胞機能を支える動的分子ネットワーク」
 学位授与

機 関 名	奈良先端科学技術大学院大学	整理番号	b032
<p data-bbox="165 199 588 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 488 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 533 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に十分適合しており、その実現性も高く、一定の成果と今後の展開も十分期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 871 1206 904">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 967 635 1001">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 1016 1428 1283" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="165 1016 1428 1144">・ 学生に対する競争的研究奨励制度、特待生制度、さらにはオンデマンド授業システムやカリキュラム編成、授業支援システムなど、特色ある様々な新たな教育事業の積極的な展開が計画されており、その実現性が期待される。 <li data-bbox="165 1160 1428 1283">・ ただし、コアカリキュラムとして何を教えるべきかの理念、およびその理念の下で準備されるべき科目の対応などがやや具体性を欠いていることから、カリキュラムの内容に関する十分な検討が必要である。 			